



第3章 社会情勢の変化に伴う住民意識の動向（基本目標別）

基本目標Ⅰ 男女がともに参画する人づくり

基本課題1 男女共同参画を推進する意識啓発

基本課題2 男女共同参画を推進する教育・学習の充実

《現状と課題》

国では、男女共同参画の推進を21世紀の最重要課題と位置づけ、様々な施策が展開されていますが、男女共同参画に関する国民の意識は浸透している状況ではありません。

平成26年1月に実施した「岡垣町男女共同参画に関する意識調査」（以下、「アンケート調査」）をみると、男女平等や男女共同参画の関心度は半数にとどまっています。

前回の調査結果と比較すると、今回も「関心派」がやや上回るものの、ほぼ同様の結果となっています。

性・年代別でみると、男性よりも女性の関心度が高くなっており、男女とも60歳以上の関心度が高く、若年層（18歳～29歳）の関心度が低くなっています。（6ページ参照）

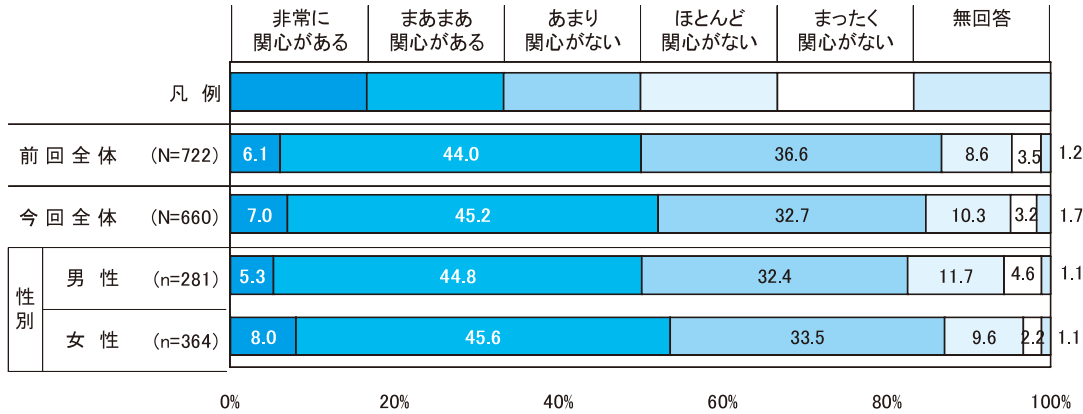
若年層では関心度が低くなっている一方で、「男女平等や男女共同参画に関する話し合いや学習経験（年代別）」の設問（7ページ参照）では、『学校で話し合ったり学習したことがある』と回答した人が多く、学習を通して日常生活での男女平等や男女共同参画の考えが浸透しているためだと考えられます。また、基本目標Ⅲの若年層の家事分担に対する意識（11ページ参照）についても男女平等や男女共同参画の意識が高いことがわかります。

今後も、男女がともに★参画する人づくりを推進するためには、個人の意識の変革が重要な課題の一つです。

そのためには、性別や年代等に即した啓発や事業を行い、それぞれの意識の向上を図ることが必要です。

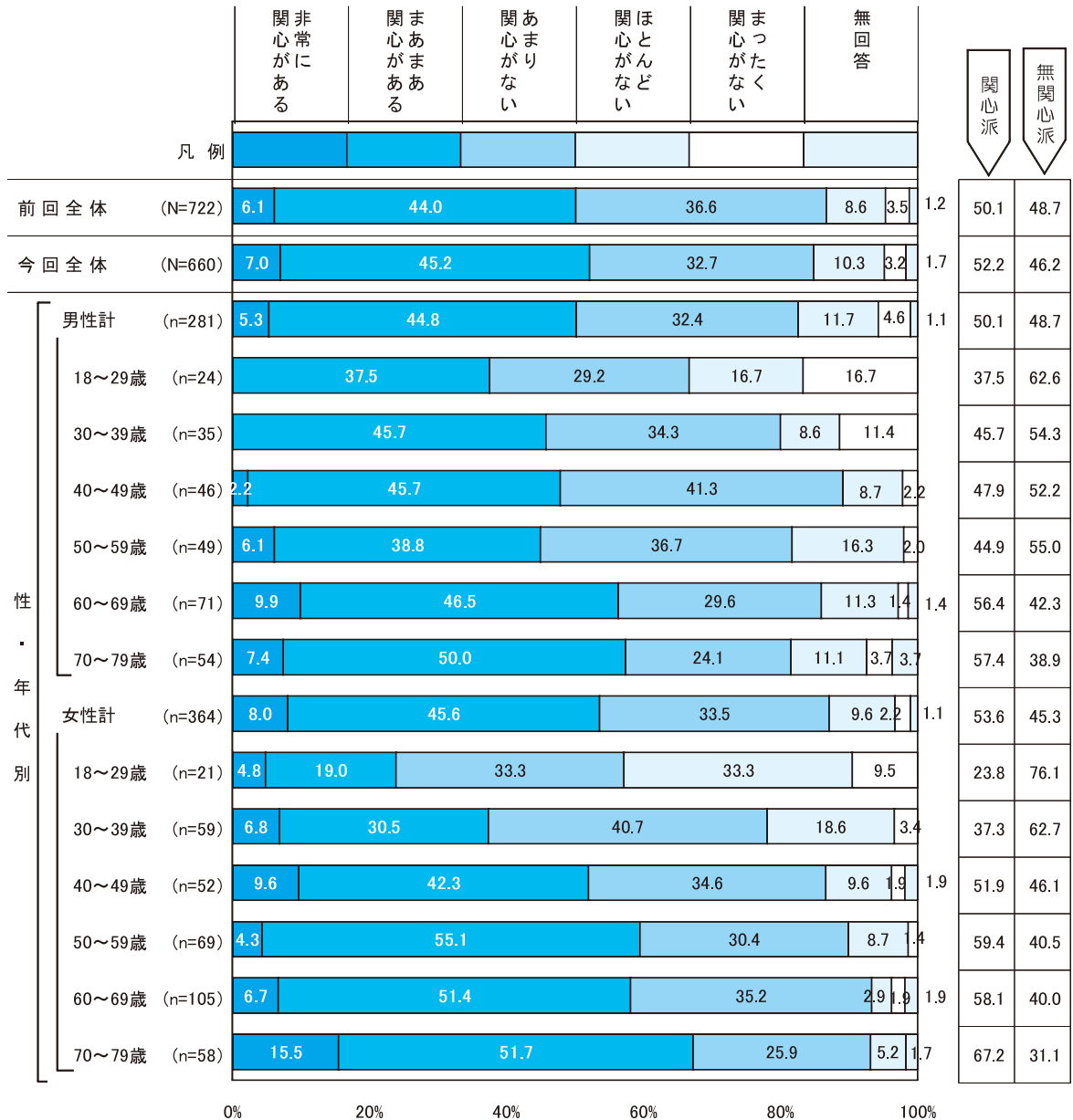
★印のある語句については、資料編（P41～P44）に解説を掲載しています。

男女共同参画に対する関心度



資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成 26 年)

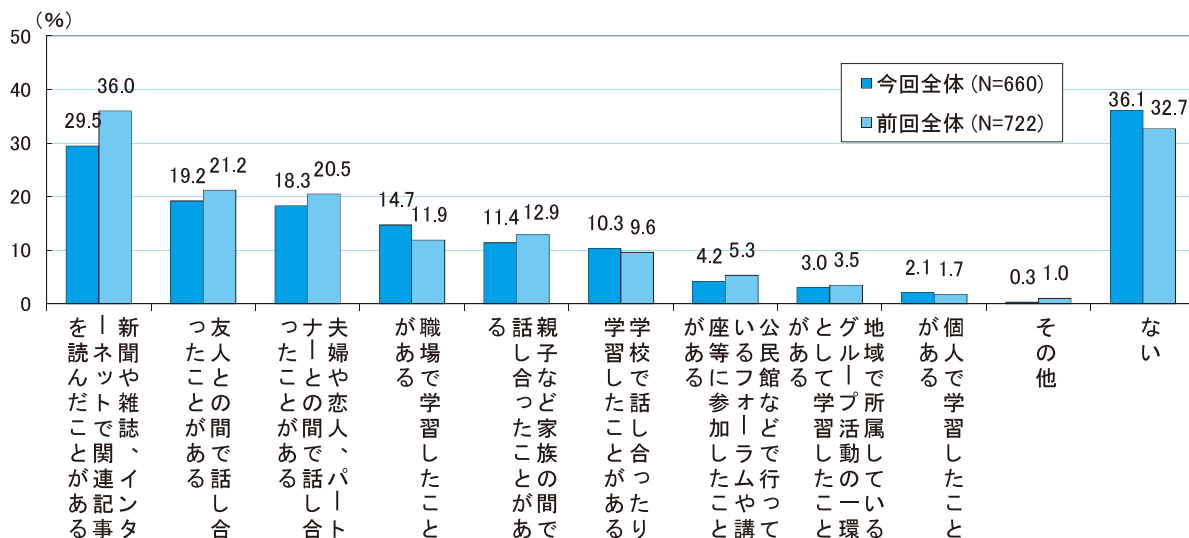
【男女平等や男女共同参画をテーマとした話題の関心度 (性・年代別)】



※ 【関心派】=「非常に関心がある」、「まあまあ関心がある」の合計
 【無関心派】=「まったく関心がない」、「ほとんど関心がない」、「あまり関心がない」の合計

資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成 26 年)

男女平等や男女共同参画に関する話し合いや学習経験



資料：岡垣町男女共同参画に関する意識調査（平成 26 年）

【男女平等や男女共同参画に関する話し合いや学習経験（性・年代別）】

（単位：％）

性・年代別	サンプル数（人）	新聞や雑誌、インターネットで見たこと	友人との間で話したことがある	夫婦や恋人、パートナーとの間で話したことがある	職場で学習したこと	親子など家族の間で話したことがある	学校で話したことがある	座席等に参加したことがある	公民館などで行ったことがある	地域で所属しているグループの活動に参加したことがある	個人で学習したこと	その他	ない
		全体	660	29.5	19.2	18.3	14.7	11.4	10.3	4.2	3.0	2.1	0.3
男性計	281	29.2	12.5	16.0	18.9	9.3	11.7	3.2	2.8	1.8	0.4	36.7	
	18～29歳	24	25.0	8.3	4.2	4.2	75.0	4.2	-	4.2	-	16.7	
	30～39歳	35	28.6	5.7	22.9	14.3	5.7	17.1	8.6	-	-	40.0	
	40～49歳	46	17.4	15.2	23.9	37.0	10.9	13.0	-	-	-	26.1	
	50～59歳	49	36.7	10.2	22.4	28.6	6.1	2.0	-	4.1	2.0	36.7	
	60～69歳	71	33.8	15.5	15.5	19.7	15.5	2.8	4.2	1.4	2.8	1.4	39.4
	70～79歳	54	27.8	14.8	5.6	3.7	7.4	-	3.7	9.3	1.9	-	48.1
	男性年齢無回答	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
	女性計	364	29.9	24.5	20.3	11.5	12.6	9.3	4.9	3.3	2.5	0.3	36.0
	18～29歳	21	23.8	9.5	4.8	4.8	9.5	57.1	-	-	-	-	33.3
30～39歳	59	23.7	16.9	13.6	10.2	5.1	16.9	1.7	1.7	5.1	-	44.1	
40～49歳	52	30.8	28.8	38.5	19.2	15.4	9.6	5.8	1.9	-	-	30.8	
50～59歳	69	27.5	33.3	24.6	10.1	18.8	4.3	2.9	-	1.4	1.4	36.2	
60～69歳	105	32.4	23.8	18.1	16.2	13.3	2.9	5.7	4.8	3.8	-	35.2	
70～79歳	58	36.2	24.1	15.5	1.7	10.3	1.7	10.3	8.6	1.7	-	34.5	
無回答	15	26.7	20.0	13.3	13.3	20.0	6.7	6.7	-	-	-	26.7	

資料：岡垣町男女共同参画に関する意識調査（平成 26 年）

基本目標Ⅱ 男女がともに参画する地域づくり

基本課題1 地域における男女共同参画の推進

基本課題2 政策・方針決定の場への女性の参画推進

《現状と課題》

地域活動において、役員等への就任を依頼された場合、女性の大半が「断る」意向となっており、役員等には男性の就任が多い状況です。

アンケート調査をみると、役員等を断る理由は性別によって回答結果が異なり、男性は『仕事をしているから』、女性は『自分には荷が重いから』と回答した人が多くなっています。

防災に関する設問については、『防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する』という回答をした女性が少なく、女性自身の女性リーダー育成への関心が低いようです。(10 ページ参照)

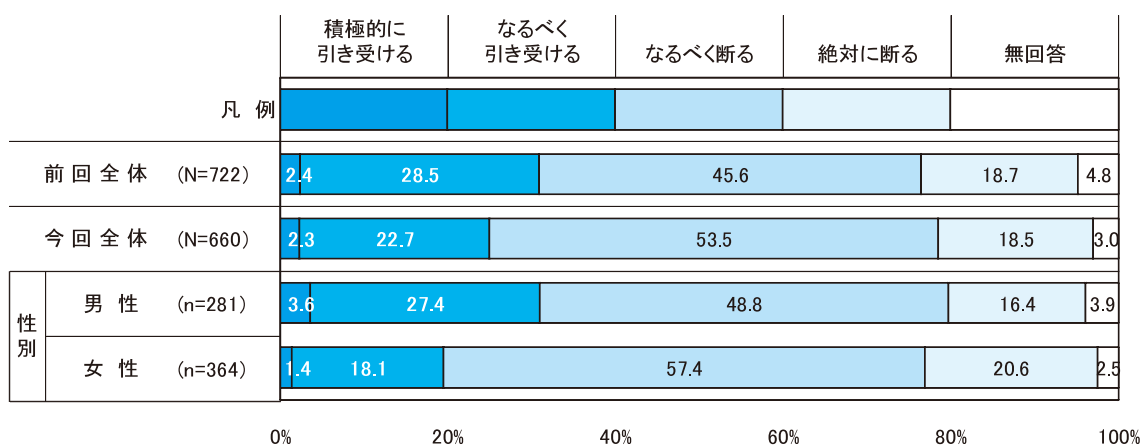
これらの要因は、女性が代表や役職に就くと責任が伴うことを負担に思っていたり、責任が伴う仕事や役職などの経験が不足しているということが理由の一つと考えられます。

また、東日本大震災では災害直後や避難所運営に女性が参画していないことや、日頃の対策等に女性の視点がないことなどの問題が指摘されています。

政策・方針決定の場へ女性の参画を促すためには、身近な活動の場である地域活動などにおいて女性が経験を重ねることが必要です。

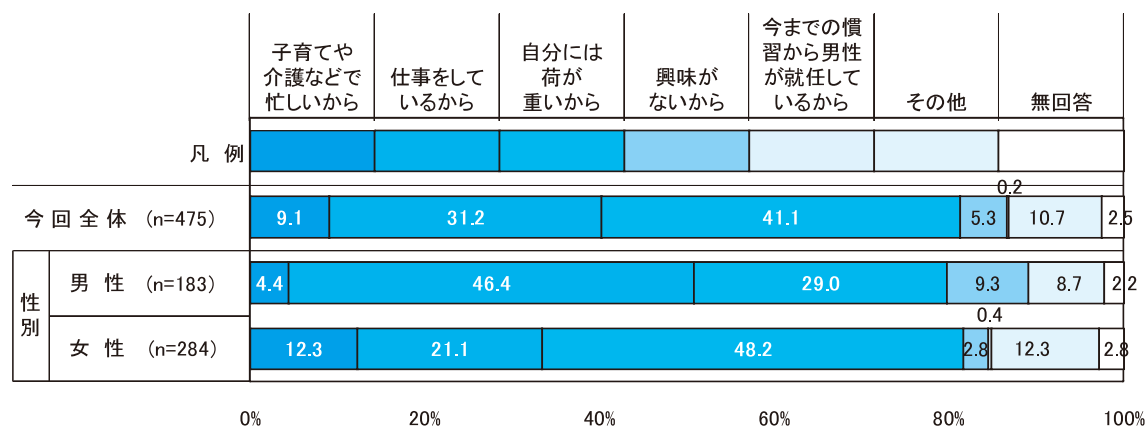


地域活動代表の受託意向



資料:岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成26年)

地域活動代表の受託を断る理由



資料:岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成26年)

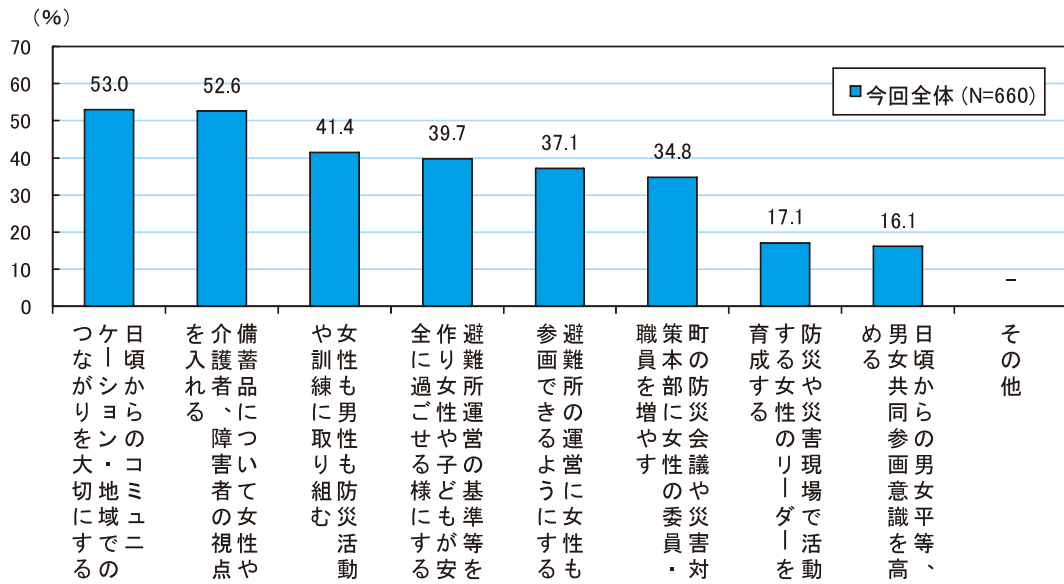
審議会等における女性の登用状況

	合計	地方自治法202条の3に基づく審議会等		地方自治法180条の5に基づく審議会等
			県平均	
平成21年4月1日	31.0%	27.6%	24.6%	18.5%
平成22年4月1日	31.6%	27.4%	25.9%	17.9%
平成23年4月1日	31.0%	26.6%	26.3%	17.9%
平成24年4月1日	31.8%	29.1%	26.8%	17.2%
平成25年4月1日	31.7%	30.3%	27.6%	17.2%

※合計:地方自治法202条の3に基づく審議会等・同法180条の5に基づく委員会等
 その他行政に関わる団体等の合計の女性登用率

資料:岡垣町

防災対策に女性が参画するために必要なこと



資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成 26 年)

【防災対策に女性が参画するために必要なこと (性・年代別)】

(単位: %)

性・年代別	サンプル数(人)	必要なこと									
		日常からの地域でのつながりを大切にする	備蓄品、障害者の視点や介護者、障害者の女性やを入れる	女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	避難所運営の基準等を子どもが安心できるようにする	避難所の運営に女性も参画できるようにする	町本部や会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす	防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する	日頃からの男女平等、男女共同参画意識を高める	その他	
全体	660	53.0	52.6	41.4	39.7	37.1	34.8	17.1	16.1	-	
男性計	281	47.7	48.0	47.0	38.1	38.4	39.1	22.1	17.1	-	
	18~29歳	24	37.5	50.0	54.2	33.3	54.2	33.3	12.5	12.5	-
	30~39歳	35	28.6	60.0	31.4	31.4	34.3	28.6	14.3	5.7	-
	40~49歳	46	43.5	50.0	41.3	52.2	30.4	32.6	13.0	13.0	-
	50~59歳	49	38.8	51.0	49.0	28.6	36.7	53.1	26.5	18.4	-
	60~69歳	71	59.2	49.3	50.7	38.0	43.7	38.0	23.9	19.7	-
	70~79歳	54	61.1	33.3	51.9	40.7	35.2	42.6	31.5	24.1	-
	男性年齢無回答	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-
	女性計	364	56.6	56.9	37.1	41.2	37.1	31.3	13.5	15.4	-
	18~29歳	21	52.4	61.9	38.1	42.9	28.6	28.6	4.8	14.3	-
	30~39歳	59	32.2	66.1	39.0	49.2	35.6	39.0	15.3	8.5	-
	40~49歳	52	51.9	71.2	34.6	40.4	30.8	50.0	7.7	25.0	-
	50~59歳	69	60.9	58.0	39.1	42.0	43.5	26.1	14.5	20.3	-
	60~69歳	105	61.0	46.7	38.1	41.9	37.1	27.6	14.3	9.5	-
70~79歳	58	74.1	50.0	32.8	31.0	39.7	20.7	17.2	19.0	-	
無回答	15	66.7	33.3	40.0	33.3	13.3	40.0	13.3	13.3	-	

資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成 26 年)

基本目標Ⅲ 男女がともに能力を発揮できる自立した生き方づくり

基本課題1 職場における男女の均等な機会と待遇の確保

基本課題2 ワーク・ライフ・バランスの推進

基本課題3 生涯を通じた男女の健康支援

《現状と課題》

近年は、働く女性が増える一方で少子化が急速に進んでおり、その背景には、仕事と育児を両立できる環境が十分に整っていないということが大きな要因として考えられます。

アンケート調査をみると、各分野において、男女の地位は平等であるかという設問では、職場において『男性が優遇』と回答した人が60.5%、『女性が優遇』と回答した人が6.4%と、前回調査と同様に、男性の方が優遇されていると感じている人が多い状況です。

また、女性が働き続ける上での課題として『仕事と家庭が両立できる制度が整っていない』という回答や、女性の再就職への援助について『保育体制を充実する』必要があるという回答が多く、職場における男女の均等な機会と待遇の確保のため、事業者に対して育児・介護休業などの制度の周知や職場環境の整備を推進するよう働きかけることが必要です。(12 ページ参照)

「男は仕事、女は家庭」という★固定的性別役割分担意識は『同感する』や『ある程度同感する』が53.1%と過半数をしめており、前回の調査結果と比較すると、ほぼ同様の傾向を示しています。

男女平等や男女共同参画の関心度別にみると、男女平等や男女共同参画に対する関心度が高い人ほど「男は仕事、女は家庭」という考え方に『同感しない』割合が高く、逆に関心度が低い人ほど『同感する』割合が高くなっています。(13 ページ参照)

女性が働くことに対する意識について、『子どもができれば働くことをやめ、大きくなったら再び働く方がよい』と回答した人が前回調査と同様に多く、男性より女性の方が多く結果となっています。平成24年に実施された国の調査では、『子どもができて、ずっと働き続ける方がよい』という回答が47.5%で最も多くなっていますが、岡垣町では子どもが小さい間の育児は母親が家庭で行うという考えが男女ともに最も多くなっています。

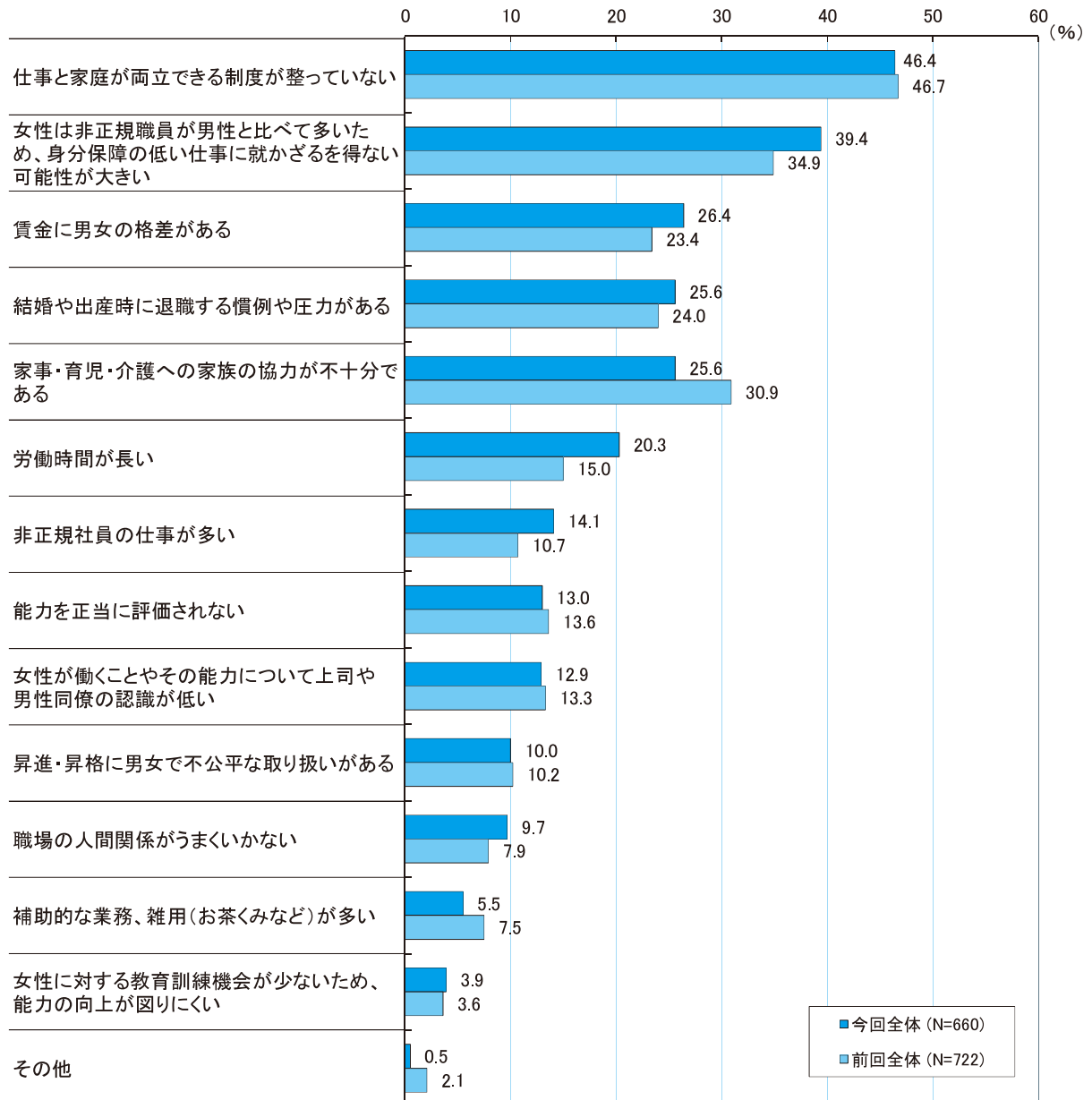
また、家事の分担については、『家事は主に妻』と答える人が85.8%を占め、妻の就業形態に関わらず、多くの家庭で妻が家事を担っているのが現状です。(16 ページ参照)

その反面、家事を男女で分担することについて、意識では「どちらでも手のあいている方が家事をすればよい」が54.4%を占めています。若年層では、男女ともに『男女とも同じように家事を行うのがよい』という回答が20%を超えており、家事分担に対する男女平等や男女共同参画の意識が高いことがわかります。

このようなことから、男女平等や男女共同参画の意識があったとしても、実情として「家事は主に妻」が担っているため、固定的性別役割分担意識に対して同感する人が多いのではないかと考えられます。

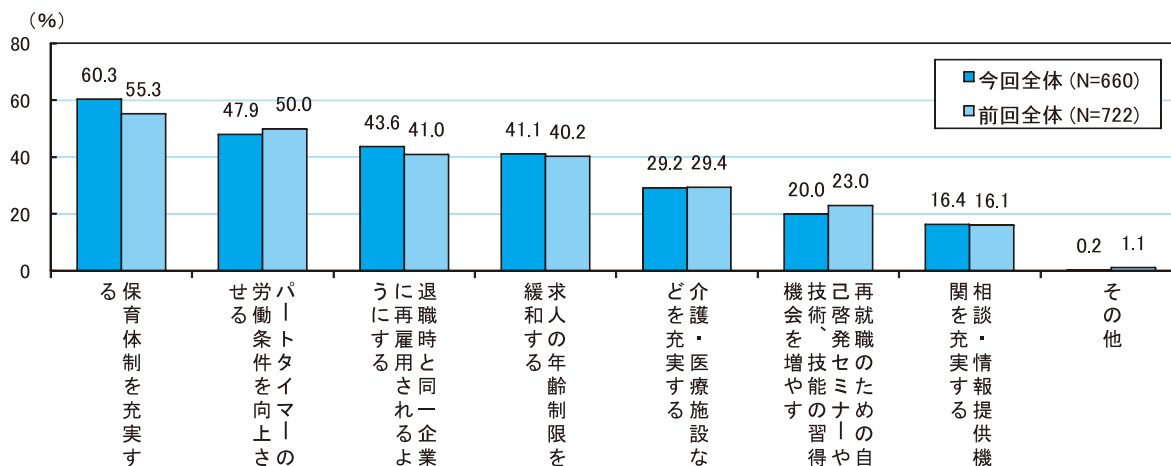
★ワーク・ライフ・バランスを推進するためには、男女平等や男女共同参画の意識を持つとともに、どのように地域、家庭、学校、職場などのあらゆる分野で実践していくかが重要です。

女性が働き続ける上での課題



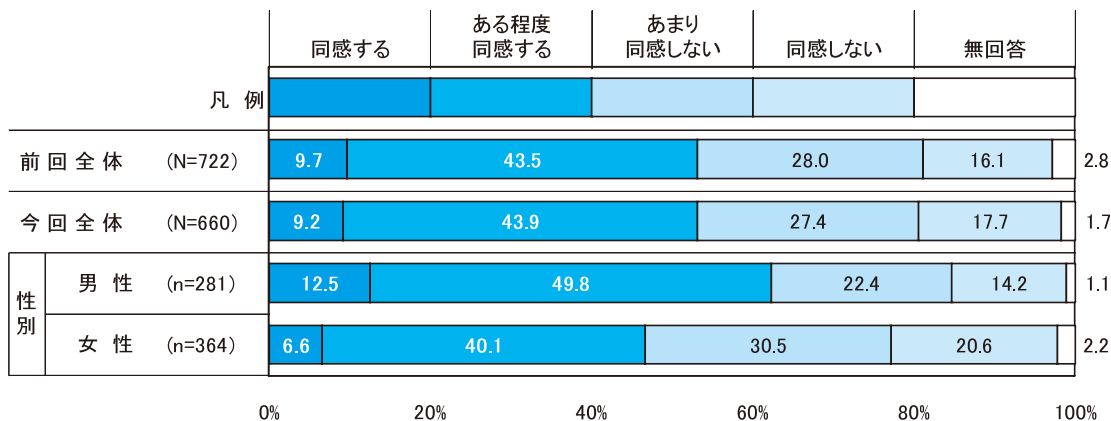
資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成 26 年)

女性の再就職への援助



資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成 26 年)

「男は仕事、女は家庭」という考え方



資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成 26 年)

【「男は仕事、女は家庭」に対する意識 (関心派・無関心派別)】

(単位: %)

		サンプル数 (人)	同感する	ある程度同感する	あまり同感しない	同感しない	無回答	【同感派】	【非同感派】
全体		660	9.2	43.9	27.4	17.7	1.7	53.1	45.1
参画をテーマとする男女平等や男女共同	非常に興味がある	46	8.7	28.3	26.1	32.6	4.3	37.0	58.7
	まあまあ興味がある	298	6.0	44.6	29.2	19.1	1.0	50.6	48.3
	あまり興味がない	216	12.5	44.9	27.8	13.9	0.9	57.4	41.7
	ほとんど興味がない	68	10.3	51.5	19.1	14.7	4.4	61.8	33.8
	まったく興味がない	21	14.3	47.6	14.3	23.8	-	61.9	38.1
	無回答	11	18.2	18.2	54.5	-	9.1	36.4	54.5
	【関心がある計】	344	6.4	42.4	28.8	20.9	1.5	48.8	49.7
【関心がない計】	305	12.1	46.6	24.9	14.8	1.6	58.7	39.7	

資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成 26 年)

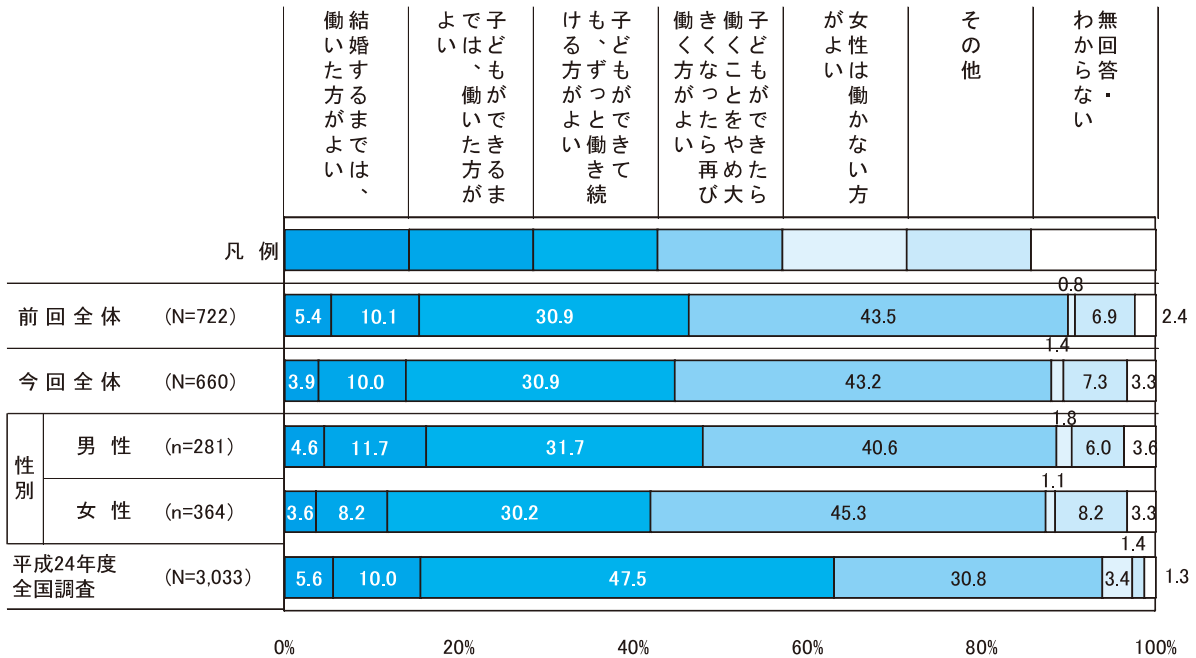
【「男は仕事、女は家庭」に対する意識（性・年代別）】

(単位:%)

		サンプル数(人)	同感する	ある程度同感する	あまり同感しない	同感しない	無回答	【同感派】	【非同感派】
全体		660	9.2	43.9	27.4	17.7	1.7	53.1	45.1
性・年代別	男性計	281	12.5	49.8	22.4	14.2	1.1	62.3	36.6
	18～29歳	24	-	50.0	29.2	20.8	-	50.0	50.0
	30～39歳	35	11.4	68.6	17.1	2.9	-	80.0	20.0
	40～49歳	46	21.7	37.0	26.1	15.2	-	58.7	41.3
	50～59歳	49	8.2	44.9	28.6	14.3	4.1	53.1	42.9
	60～69歳	71	12.7	49.3	22.5	15.5	-	62.0	38.0
	70～79歳	54	14.8	51.9	14.8	16.7	1.9	66.7	31.5
	男性年齢無回答	2	-	100.0	-	-	-	100.0	-
	女性計	364	6.6	40.1	30.5	20.6	2.2	46.7	51.1
	18～29歳	21	4.8	47.6	28.6	19.0	-	52.4	47.6
	30～39歳	59	8.5	47.5	28.8	15.3	-	56.0	44.1
	40～49歳	52	3.8	30.8	34.6	30.8	-	34.6	65.4
	50～59歳	69	8.7	37.7	26.1	24.6	2.9	46.4	50.7
	60～69歳	105	4.8	35.2	34.3	21.0	4.8	40.0	55.3
70～79歳	58	8.6	50.0	27.6	12.1	1.7	58.6	39.7	
無回答	15	13.3	26.7	46.7	13.3	-	40.0	60.0	

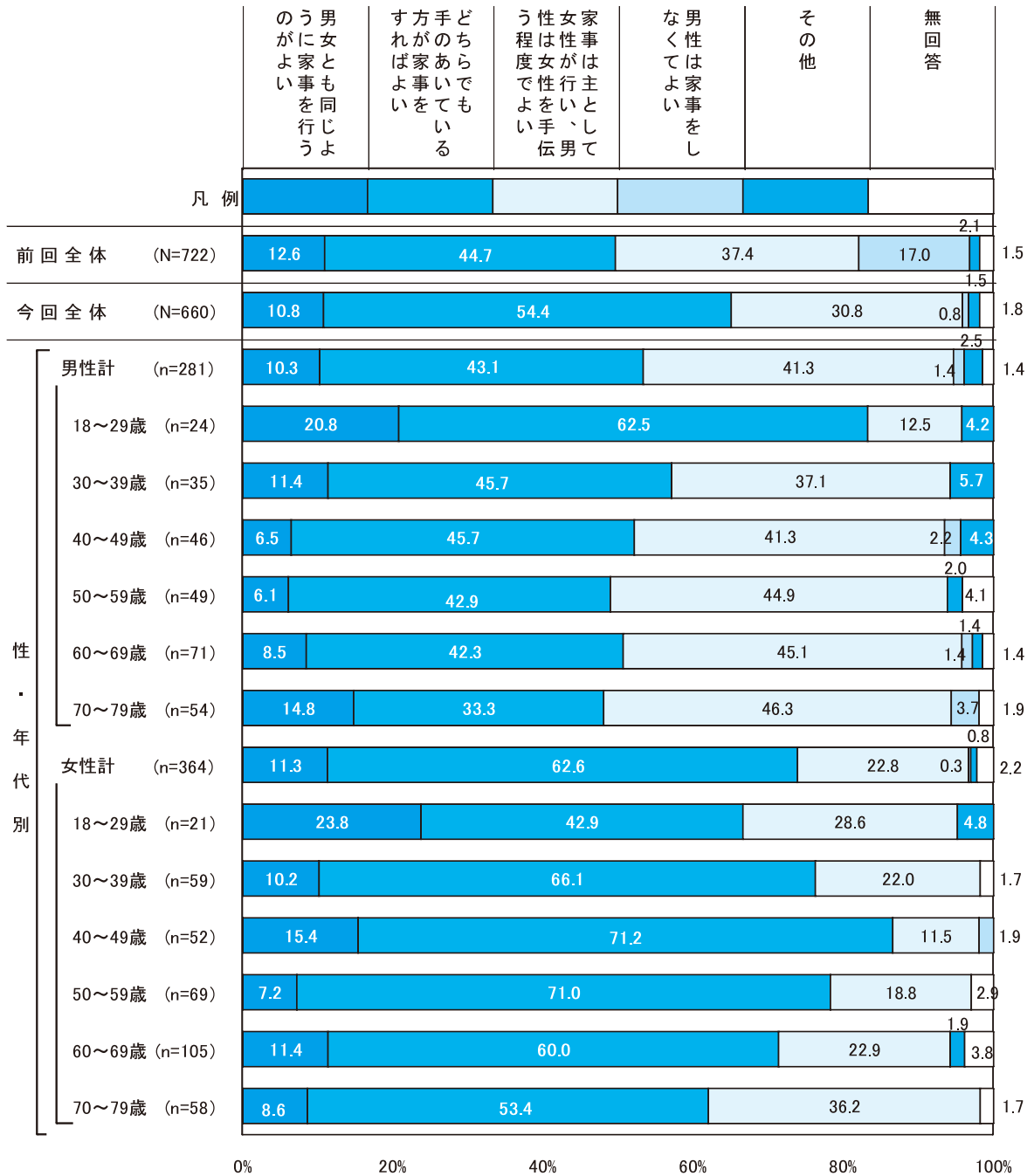
資料:岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成26年)

女性が働くことに対する意識



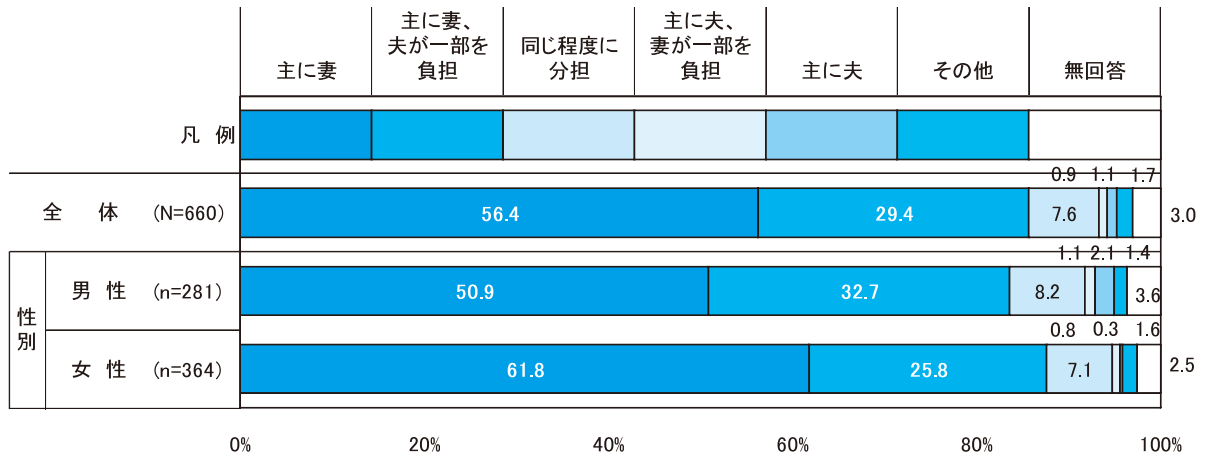
資料:岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成26年)

家事を男女で分担することに対する意識



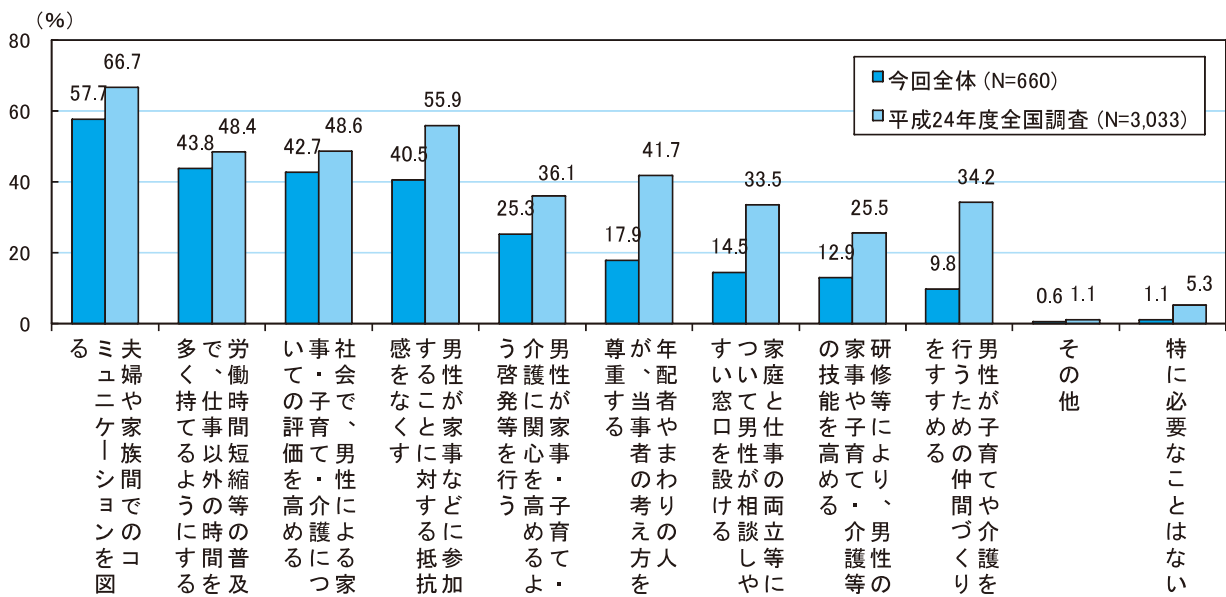
資料：岡垣町男女共同参画に関する意識調査（平成26年）

家事分担の実態



資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成 26 年)

男性が家事・子育て・介護に積極的に参加していくために必要なこと



資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成 26 年)

IV 男女がともに人権を尊重する社会づくり

基本課題1

性別によるあらゆる人権侵害の根絶

基本課題2

女性へのサポート体制の充実

《現状と課題》

近年、全国で★DV（配偶者・パートナーからの暴力）や★セクシュアル・ハラスメントなどが大きな社会問題として取り上げられています。特にDVにおいては、報道等で知られているように、殺人や傷害など重大な事件に発展するおそれがあり、適切な対応を行う必要があります。

アンケート調査をみると、DVやセクシュアル・ハラスメントなどを経験した人がいることが分かります。また、全国・福岡県・岡垣町のDVの相談件数は増加傾向にあります。（18 ページ参照）

DV等の被害は、家庭内や親しい間柄で起こることが多いため潜在化しやすいという問題がありました。近年はDV等に関する報道や啓発などにより認知が高まり、相談件数の増加につながっていると考えられます。

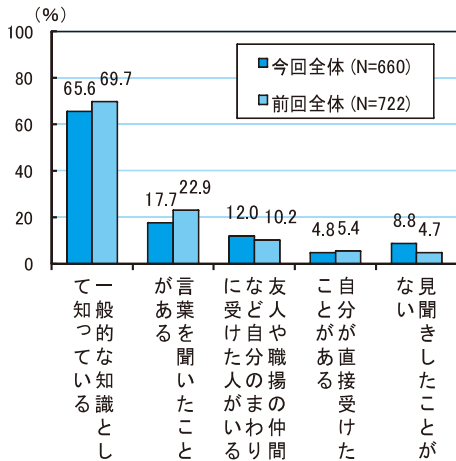
DVの被害を受けたあとの対応について『何もしなかった』と回答した人が17.1%であり、前回調査と比較すると8.5%減少しており、『身内や友人・知人以外の相談窓口で相談した』という回答した人が増えています。

今後も、DVやセクシュアル・ハラスメント等の被害者が安心して相談できるサポート体制の充実を図るとともに、関係機関との連携体制の強化を図る必要があります。また、サポート体制の周知や、DV等被害者の情報管理の徹底により一層努める必要があります。

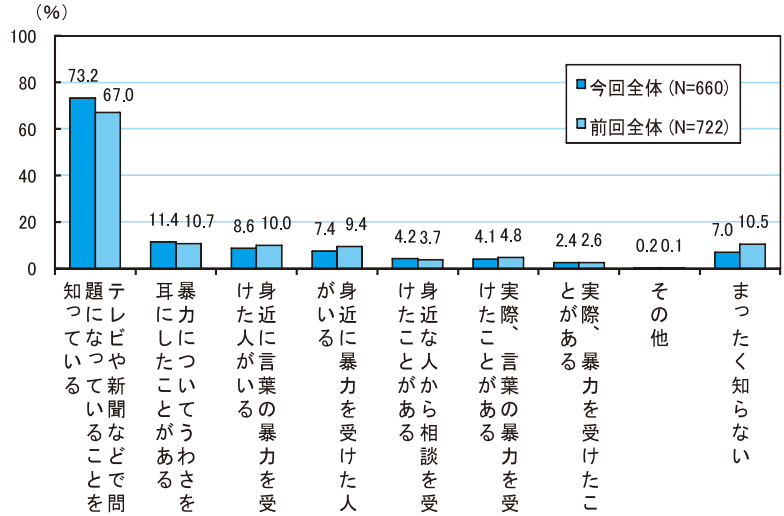


セクシュアル・ハラスメント、DVの被害経験など

【セクシュアル・ハラスメントの被害経験】

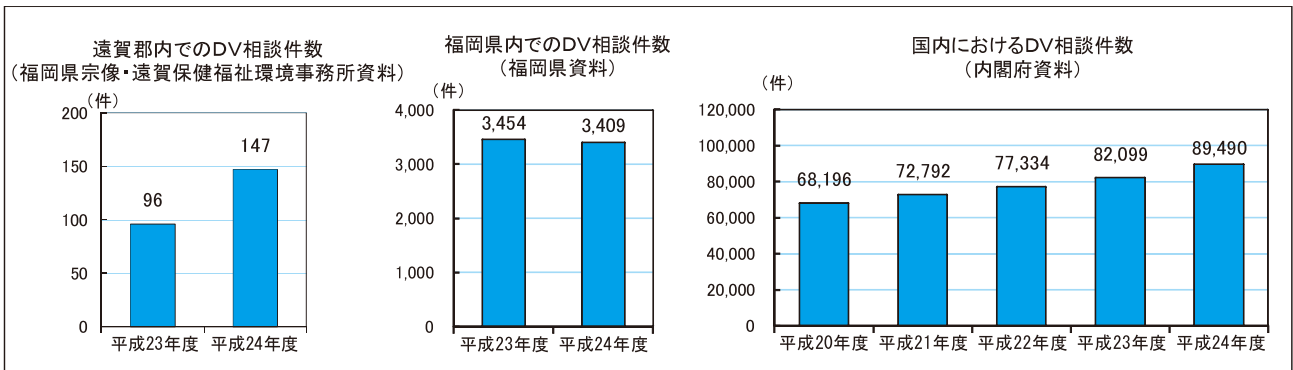


【DVの被害経験など】



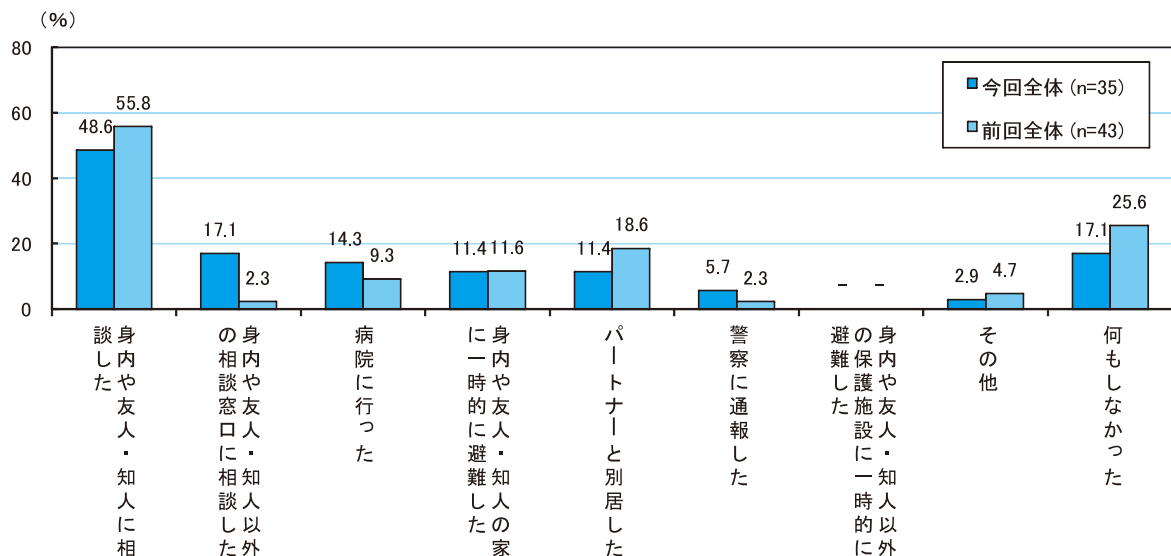
資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成 26 年)

【DVの相談件数】



資料: 岡垣町

DV被害後の対応



資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成 26 年)

基本目標Ⅴ 男女共同参画を推進する組織づくり

基本課題1

男女共同参画の視点に立った行政運営の推進

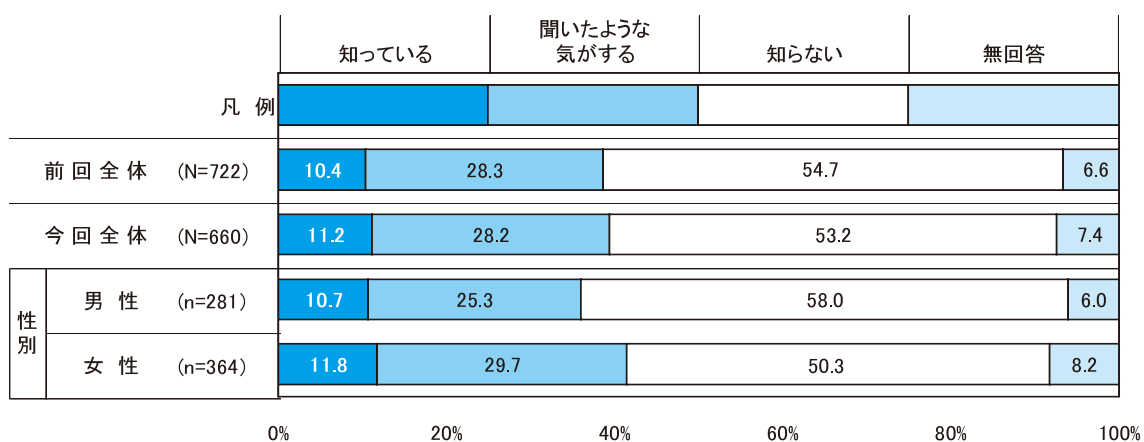
《現状と課題》

町の施策等に男女の意見を反映させていくためには、男女共同参画の視点に立った行政運営が求められます。

アンケート調査をみると、町の条例「岡垣町男女共同参画～ともに支えあい、ともに輝く～まちづくり条例」や男女共同参画関連施策の認知度が低い状況です。そのなかで、「★おかがきホットライン」の認知度については、前回調査と比較すると10.6%上昇しています。これは、周知用のカードをイベント時に配布したり、公共施設だけでなく商業施設等の民間施設にも設置箇所を増やすなど継続的に取り組んできた成果だと考えられます。

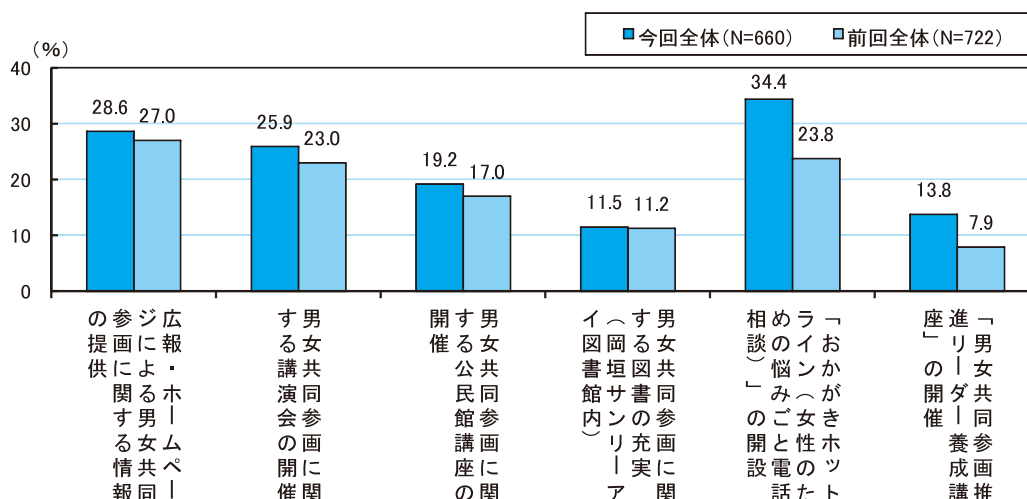
今後も、男女共同参画社会の実現に向けた実効性のある施策を男女共同参画の視点に立って、着実に実施していくことが重要です。

「岡垣町男女共同参画～ともに支えあい、ともに輝く～まちづくり条例」認知状況



資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成26年)

各種施策の認知状況



資料: 岡垣町男女共同参画に関する意識調査(平成26年)